

1 実施概要

全国学力・学習状況調査は、文部科学省が全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、教育施策の成果と課題とを検証し改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や改善に役立てることを目的として、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、平成19年度から実施されています。本年度は市内、小学生722名、中学生555名が参加し、4月17日に調査が行われました。内容は、毎年実施されている国語、算数・数学及び3年ぶりに実施された理科に関する調査と、学習習慣や生活状況等について尋ねる児童・生徒質問紙調査となっています。

2 学力調査の概要

【全般的な概要】

- 小学校については、国語・算数ともに、A問題（主として「知識」に関する問題）・B問題（主として「活用」に関する問題）で、平均正答率が全国平均・府平均を上回っています。調査開始以来、高い学力状況にあります。
- 中学校については、国語・数学ともに、A問題・B問題で、平均正答率が全国平均・府平均を上回っています。高い学力状況にあります。
- 小・中学校とも、全国的な傾向と同様、A問題に比べB問題の正答率が低い状況にありますので、「活用」する力の育成に向けて、今後とも授業改善等に取り組んでいくことが課題であると考えています。
- 理科については、小学校は全国平均・府平均を上回っていますが、中学校では全国平均・府平均をやや下回る結果となっています。

【国語の概要】

- 小・中学校ともA問題では、基本的な読み書き、文章を読むことに関してはよくできています。
- 小学校のB問題では、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことに課題が見られました。
- 中学校では活用型の学力の改善は見られますが、根拠を明確にして書いたり、目的に応じて文章や資料から、必要な情報を取り出して、自分の考えをまとめる力が依然課題となっています。

【算数・数学の概要】

- 小学校では、四則計算などを含む全領域で基本的な知識・技能についてはよくできています。
- B問題などで、ことばや数を用いて理由を記述したり、説明したりすることに依然課題が見られます。
- 中学校では、基本的な計算問題はよくできています。
- 反比例など関数の単元に課題が見られます。また、B問題では、グラフや表に関わる問題や情報を論理的に処理する力や数学的な表現を用いた理由の説明、図形の性質を用いた方法の説明に課題が見られます。

【理科の概要】

- 小・中学校ともに、理科に関する基礎的・基本的な知識・技能についてはよくできています。
- 活用問題では、小学校は観察・実験の結果や分析して考察した内容をまとめて記述することに課題が見られます。
- 中学校は、観察や実験で身に付けた知識や技能から、自分の考えをもち、他者の考えと比べながら、結論を科学的にまとめていくことに課題が見られました。

3 質問紙調査の概要

【生活習慣について】

小・中学校ともに、「毎日、朝食を食べる」「起床・就寝時刻が決まっている」など、基本的な生活習慣が身につけている児童生徒の割合が高くなっています。規則正しい生活習慣の確立に向け、今後も家庭での習慣づけをお願いいたします。

【学習習慣について】

小・中学校ともに、家庭学習(宿題を含む)によく取り組んでいます。今後も自学自習において自分で計画を立て予習や復習をすることが大切です。

学力の基盤となる読解力の育成とも深い関係がある読書に関する質問については、小・中学校ともに全国と比べ読書時間の割合が低く、読書を全くしない児童生徒もいます。

【自分自身に関することについて】

「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童生徒の割合が高く、前向きな意識を持って生活していることがうかがえる反面、「自分には良いところがある」「将来の夢や目標を持っている」と答えた割合は、小学校ではよくなっていますが、中学校では全国と比べやや低くなっています。物事を最後まであきらめず、やり遂げた達成感を数多く体験させることが大切と考えます。

【地域・社会との関わりについて】

「地域や社会をよくするために、何をすべきか考えることがある」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」などの地域社会に関する質問は、小・中学校とも全国に比べて低くなっています。

「新聞を読んでいますか」の質問については、全国と同じく低い傾向にあります。社会で何が起きているかの情報に関しては、新聞よりスマートフォン等でインターネットのニュースを見る機会が多くなっています。

【その他】

授業で自分の考えを発表することや、児童生徒での話し合う活動が多く取り入れられており、授業の内容がよく分かると答えている児童生徒が増えています。授業において、確かな学力の育成に向けた指導方法の工夫・改善が進んでいます。

4 調査結果の分析を踏まえた今後の改善方策

- 新学習指導要領を見据えた教育課程の編成や分かりやすく楽しい授業、主体的・対話的で深い学びを意識した授業を更に進めてまいります。
- 基礎学力の定着を図るとともに、「活用する力」の育成に向け、子どもたちの主体性や学習意欲を引き出す「学び合い」のある学習活動を効果的に取り入れ、様々な意見をしっかりと聞き、自分の考えを深めながらまとめて書く力や、根拠を持って分かりやすく説明する力を伸ばす言語活動の充実を一層進めていきます。
- 図書を活用した授業を工夫し、本やインターネットを使った調べ学習や、探究的な学習の工夫に引き続き力を入れていきます。また、ICT活用による教育の質の維持・向上を図るとともに、更に教育機器などのICT環境を整備していきます。
- 家庭学習と学力には、強い相関が見られます。予習や復習など自ら計画を立てて学習する、より質の高い家庭学習や自学自習の習慣化の確立に向けて取組を進めていきます。家庭におかれましても、家庭学習の習慣化に向けてご協力をお願いいたします。

教育委員会では、子どもたちに、学校や家庭・地域の中で、多様な力を身につけ大きく成長してほしいと願っています。本調査の結果だけで学力の全てを表すことはできませんが、これを一つの指標として、児童生徒一人一人の学びや生活を充実させ、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育むために、子どもたちの状況に応じて、各学校で有効に活用し、学力充実に向け一層努力してまいります。保護者をはじめ、市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。